



2010 エイボン女性年度賞 受賞者決定

第32回エイボン女性大賞 本間郁子さん

～高齢者が尊厳を持って美しく老いるべき場、特養ホームの質向上のため力を尽くし続ける～

女性賞は、日本独自のアームの設計開発に携わり、宇宙戦略に貢献を果たした大塚聡子さん
世界の紛争地帯や独裁国家の人権侵害を告発し、果敢な活動を繰り広げている土井香苗さん

エイボン女性文化センター(東京都新宿区/エイボン・プロダクツ株式会社が運営)は、2010年10月19日、『2010 エイボン女性年度賞』の受賞者を下記のとおり、決定しました。

エイボン女性大賞	ほんまいくこ 本間郁子さん NPO法人「特養ホームを良くする市民の会」理事長
エイボン女性賞	おおつかあきこ 大塚聡子さん 日本電気(株) 宇宙システム事業部 宇宙システム部 エキスパートエンジニア
エイボン女性賞	どいかなえ 土井香苗さん ヒューマン・ライツ・ウォッチ 東京ディレクター、弁護士

本賞は、その年度で顕著な活動をされた方、永年の地道な努力を結実された方、女性の新しい可能性を示唆する先駆的活動をしている方という観点から、厳正な審査の未決定しています。1979年の創設以来、第1回女性大賞の市川房枝さんから昨年度までで総勢159の方が受賞しました。

本年度で第32回を迎えた本賞に、今年もこの一年間でキーワードとなる事象に関連する分野で功績をあげられた3名の女性が選出されました。

※詳細は次頁をご参照ください。

<本件に関するお問い合わせ先>

エイボン・プロダクツ株式会社 コミュニケーション部門 岩城 昌子 〒163-1430 東京都新宿区西新宿 3-20-2 Tel:03-5353-9391 Fax:03-5353-9056	2010 エイボン女性年度賞 広報事務局 共同PR株式会社 第四業務局 横山/高橋 Tel:03-3571-5238 Fax:03-3571-5380
--	--

2010年のキーワード

2008年に勃発した金融危機に端を発した世界的な経済不況が混迷を深める中、2010年2月、一編の明るいニュースが日本に希望をもたらします。野口聡一宇宙飛行士による「きぼう」ロボットアームの運用、実験準備が順調に行われたという知らせでした。さらに、6月には小惑星探査機「はやぶさ」が無事帰還、日本中が喜びに包まれました。これら高度な技術開発が実現させた宇宙開発のニュースは日本人に、夢と自信を思い起こさせました。

また、世界では経済不況によるパワーバランスの変化から社会不安も進行しています。自国の復興に忙殺される経済大国の監視の眼を逃れ、ミャンマーをはじめとする複数の地域では人権侵害が深刻化、一刻の猶予もならない事態に及んでいます。自国の経済的豊かさや平和を追求するだけでなく、すべての人が最低限守られるべき人権を保障される世界、その実現に向けてリーダーシップを担ってこそ、グローバルな社会の中での発言権を強めていくことができるのではないのでしょうか。

一方、国内では高齢化社会の本格的な到来を目前にして、制度の拡充が急がれています。しかし、未だ解決されない年金問題、行方不明高齢者の多発、虚偽の生存報告など、高齢者をめぐる問題は枚挙にいとまがありません。これらは問題を先送りにし、見て見ぬふりをしてきた私たちすべての日本人に責任があると言えるかもしれません。これからは、日本人全員が、すべての人が通る老いの問題、そして高齢化社会という世界の誰も経験したことのない、巨大な難問に正面から立ち向かい、考えていく必要があるのです。

日本が進むべき道を見失いかけている状況の中、次の時代に立ち向かうべきテーマを強く掲げ、突き進む方々があります。本年の受賞者の方々は、重大な問題を顕在化させ、将来の日本のために立ち向かうべき方向を示して、尽力されている方々です。

エイボン女性大賞／本間郁子さん

全国の特養ホームの入居者と家族への丹念な聞き取り調査と、施設への訪問調査を実施し、社会の暗部として隠されがちな入居者の悲嘆、家族の怒り、施設職員の苦悩を浮き彫りにした。一方で、行政への提言も粘り強く続け、要望書の約6割を実現、特養ホームの完全個室化の制度化、「高齢者虐待防止法」を2006年に法律として実現させた。年を取っても病を得ても人間の尊厳は変わらず、人は美しく老いるべき、その信念のもと、誰もが通る老いの道とその実情に光を当て、改善するために邁進している。

エイボン女性賞／大塚聡子さん

「星出彰彦さんがロボットアームを操り任務完了」「若田光一さんが『きぼう』のロボットアームを操作」。国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」で実験や保全作業支援に活躍する宇宙ロボット“ロボットアーム”。その“ロボットアームの母”と呼ばれるのが設計開発を担当してきた大塚聡子さん。危険な宇宙で人間を支援するのに不可欠なロボットアームを開発し、日本さらに世界の宇宙戦略に貢献を果たした。現在も世界の宇宙ロボット標準を作ることを目標に研究開発に邁進し続けている。

エイボン女性賞／土井香苗さん

ニューヨークに本部を構える世界最大の国際人権団体「ヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)」。世界80か国以上を網羅、各地の人権侵害の調査・告発を使命とし、政府系資金は一切受け取らないNGOであり、法曹関係者やジャーナリストなどを擁するシンクタンク的存在でもある。その東京ディレクターとして、世界の人権侵害をなくし、さらに、人権意識の薄い日本を世界の人権大国にするために、人道支援と混同されがちな人権の本質と、その問題の実態を日本に伝える活動を続けている。

エイボン女性年度賞とは

「エイボン女性年度賞」は、これからの時代を的確に捉え、社会のために有意義な活動をし、現代を生きる女性に夢と希望を与え、功績をあげている女性を表彰する賞です。1979年に開始し、今年で第32回を迎えます。同賞は、エイボン・プロダクツ株式会社が、1979年に女性の美しさおよび健康の向上や交流、社会的活動のサポートや促進を目標に設立した「エイボン女性文化センター」のプログラムです。

- 名称 「エイボン女性年度賞」
- 設立 1979年
- 趣旨 これからの時代を的確に捉え、社会のために有意義な活動をし、現代を生きる女性に夢と希望を与え、功績をあげている女性を表彰する。
- 各賞内容 エイボン女性大賞 1名
エイボン女性賞 2名
- 特長
 - 1) 選考委員全てが女性であり、幅広い分野を対象に独創的な視点から審査を行っています。
 - 2) 女性の功労と社会的視点に焦点をあてた、女性のための賞です。
 - 3) 顕著な活躍や業績で広く知られた方ばかりでなく、目立たぬ分野で地道に努力を重ねてきた方、女性の新しい可能性を示唆する方の発掘にも力を入れています
- 受賞者数 第1回女性大賞の市川房枝さんから、昨年の第31回女性大賞の村松静子さんに至る31年間に159名の方が受賞されました
- 選考委員会 エイボン女性文化センターの6名の顧問委員で構成されています
 - ・井上 由美子(脚本家)
 - ・川本 裕子(早稲田大学大学院ファイナンス科教授)
 - ・橋本 ヒロ子(十文字学園女子大学社会情報学部教授)
 - ・大熊 由紀子(国際医療福祉大学大学院教授)
 - ・齋藤 光江(順天堂大学医学部乳腺内分泌外科准教授)
 - ・古田 典子(弁護士)
- 選考方法 候補者の選出は、オピニオンリーダーや公共機関・各種団体をはじめ、広く一般より推薦を募る一方、新聞・雑誌・放送などの情報を参考にしています。特にその年度で顕著な活躍をされた方、あるいは永年の地道な努力を結実された方、女性の新しい可能性を示唆する先駆的活動をしている方という観点から、情報・資料を収集・分析。これらをもとに、6名の顧問委員による選考委員会を開き、厳正な審査を重ねた末、受賞者を決定しています
- 副賞 賞牌
賞金(エイボン女性大賞は100万円、女性賞は各50万円)
- 指名寄付団体 受賞者の活動分野の関係者および協力者の今後の発展を願い、受賞者本人への副賞とは別に、各賞の副賞と同額を受賞者が指名する団体に寄付しています

■受賞者プロフィール

エイボン女性大賞

ほんまいくこ
本間郁子さん

NPO法人「特養ホームを良くする市民の会」理事長

生年月日：1948年

出身地： 沖縄県



受賞理由

高齢者が尊厳を持って美しく老いるべき場、特養ホームの理想と現実をいち早く問題視。入居者や家族、介護者の声を丹念に聞き取って世論に訴え、特養ホームの住環境や介護の質向上のため力を尽くし続ける。

プロフィール

1948年、沖縄県生まれ。図書館情報大学（現・筑波大学）卒業。お茶の水女子大学研究生（老年学）。1997年度、お茶の水女子大学非常勤講師。98年よりNPO「特養ホームを良くする市民の会」代表として特養ホームの訪問調査や機関紙の発行、行政へのロビー活動などを推進。特養ホーム、有料老人ホーム、障害者施設、ケアハウスなど施設の質を認証するNPO「Uビジョン研究所」理事長も務める。「特養ホームで暮らすということ」「特養ホームが変わる、特養ホームを変える」など著書多数。さわやか福祉財団評議員、厚生労働省「2007年度ユニットリーダー研修実施研修施設選定委員会委員」、国家公務員初任行政研修講師なども歴任。

■受賞者プロフィール

エイボン女性賞

おおつか あきこ

大塚聡子さん

日本電気（株） 宇宙システム事業部
宇宙システム部 エキスパートエンジニア

生年月日：1961年

出身地：東京都



受賞理由

「宇宙を人が行く場所にしたい」との夢の下、宇宙空間で働くロボットアームの開発に携わって20年余。日本独自のアームの設計開発、宇宙飛行士の訓練に注力し、日本さらに世界の宇宙戦略に貢献を果たした。

プロフィール

1961年、東京生まれ。東京大学卒業後、86年に東芝に入社し、「宇宙ロボット」の研究開発を担当。90年頃から国際宇宙ステーション「きぼう」ロボットアームの開発にかかわり、今日に至る。95年に一旦、東芝を退社し、自費で米スタンフォード大学へ留学。工学部宇宙航空学科修士コースに入学して学び、翌年卒業。97年、東芝に復職。2001年、NECと東芝の宇宙開発部門による合弁会社「NEC／東芝スペースシステム」に出向。07年、NECに転籍。20年余、一貫して「きぼう」ロボットアームの開発に携わり、チームのシステム担当として統括・取りまとめ業務を手がけ、ロボットアームの設計開発に寄与した。

■受賞者プロフィール

エイボン女性賞

どいかなえ
土井香苗さん

ヒューマン・ライツ・ウォッチ 東京ディレクター、
弁護士

生年月日：1975年
出身地：神奈川県



受賞理由

人権派弁護士としての出発時から掲げ続ける「人権尊重」の志。世界の紛争地帯や独裁国家の人権侵害を告発し、日本社会に人権意識を根づかせるため、常に弱者に寄り添いながら果敢な活動を繰り広げている。

プロフィール

1975年、神奈川県生まれ。東京大学在学中の96年、当時の最年少で司法試験に合格。大学4年生時、NGOピースボートのボランティアとしてアフリカ・エリトリアを訪れ、同国法務省で法律作成を支援。大学卒業後、2000年より弁護士。業務のかたわら、難民の法的支援や難民認定法改正のロビー活動などに携わる。06年、ニューヨーク大学ロースクール修士課程修了（国際法）、07年、ニューヨーク州弁護士。06年より国際NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」ニューヨーク本部フェローに。日本駐在員を経て、日本代表に就任した。著書に「“ようこそ”といえる日本へ」など。